



# 「多文化共生シンポジウム 2019年10月6日開催実施報告」

特定非営利活動法人  
NGO多文化共生協働センター・川口

2020年2月22日

# 多文化共生シンポジウムプログラム



## 第1回多文化共生シンポジウム

日時

2019年10月6日(日) 14:00~17:00

(開場 13:30)

場所

かわぐち市民パートナーズステーション会議室 (川口市川口1-1-1 キュポ・ラM4階)



# 多文化共生シンポジウムプログラム

## プログラム

14:00 開会： 峰久 節子（NGO 多文化共生協働センター・川口 理事長）

14:10 講演： 石井 恵理子教授（東京女子大学）

『「多文化共生社会」の構築に向けて』

（共に生きる社会を目指す私たちに求められること）

15:10 休憩

15:20 パネルディスカッション(敬称略)

コメンテーター： 石井 恵理子（東京女子大学教授）

パネリスト： 大島 隆（朝日新聞政治部次長）

大塚 香織（フェロー行政書士事務所代表）

川田 一（川口市市民生活部協働推進課多文化共生係長）

廣瀬 進治（株式会社日環サービス代表取締役）

フラート バンタン（レバノン共和国大使補佐）

コーディネーター：青木 克浩(NGO 多文化共生協働センター・川口 副理事長)

17:00 閉会

主催：特定非営利活動法人NGO多文化共生協働センター・川口

後援：川口市教育委員会・川口商工会議所

お問合せ：事務局 TEL 090-4009-9501（中村）

川口市市民活動  
助成事業

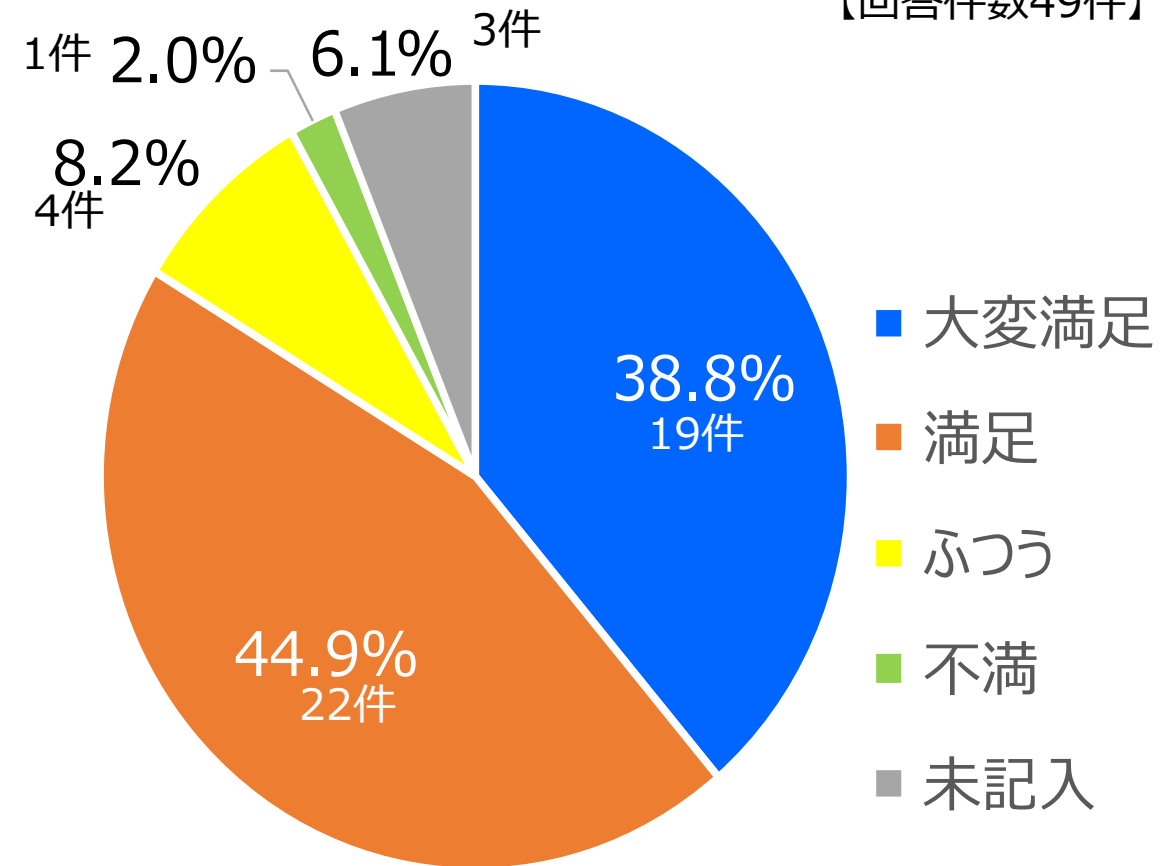
# シンポジウム参加者およびシンポジウム全体の感想

## シンポジウム参加人数

項目	参加数	
主催団体	24	講師・パネリスト含む
後援団体	2	川口市教育委員会、川口商工会議所
市役所	3	
一般	82	大人・大学生78名、 中高生3名、小学生1名
	内訳 1	外国人 4名 日本人 78名
	内訳 2	10代5名 (6.0%) 20代3名 (3.7%) 30代14名 (17.0%) 40代6名 (7.3%) 50代7名 (8.5%) 60代14名 (17.0%) 70代25名 (30.5%) 80代以上4名 (5.0%)
合計	111名	

## シンポジウム全体の感想について

【回答件数49件】



# シンポジウムアンケートの要約

- 川口市の現状や、これから自分たちはどんな事ができるのかを考えることができ、『多文化共生』について興味を持つ事ができた。このテーマは外国人だけの問題ではなく、同じ街に住む自分たちのことでもあると感じた。(10代 中学生)
- 最初は“知っている、分かっている”つもりで講義を聴いていたが、相手を思いやること、自分が変わる事など、大切なことを知ることができた。(40代)
- 在日外国人の方から日常生活に基づいた具体的な体験談を直接聴きたい。(30代)
- 親に連れられた子供たちの進学や就学の問題について、是非今後のテーマとして取り上げて欲しい。(50代)
- 学校現場は目の前の子供たちへの対応に追われ、長期的な視点での教育はできていない。是非、行政の方々にも石井先生のお話を聴いてもらいたい。(50代 小学校教師)
- “なんとなく共存しているだけの現状”は改善した方が良いのか？あらためて考えてみたいと思う。(30代)
- 日本語教育というより“日本教育”だと思う。外国人が文化、歴史、生活等を理解することも必要。(60代)



## シンポジウムの効果

- 基調講演及びパネルディスカッションを行ったことにより、参加者に川口市の多文化共生について考えて理解を深めてもらうことができた。
- 成果物（報告書）にはシンポジウムの内容のみならず、川口市の多文化共生に関する統計データや在留資格に関する情報を盛り込み、市立中学校、等にも配布して研修資料としての活用を期待している。

# シンポジウムの反省点および今後の改善策

- 以下の理由により予定したプログラム（パネリスト間の意見交換・フロアーからの質疑応答）が実施できなかった。

①シンポジウムのプログラムの時間配分に余裕がなかった。

②基調講演者・パネリストの話が想定外に長くなってしまった。

- 今後の改善策

①開始時間を早める等時間的余裕を持たせたプログラムにする。

②基調講演者・パネリストと事前打合せ十分に行い、時間管理の徹底を図る。

# シンポジウム今後の発展・展開・継続について

**今後とも在住外国人の増加が予想され、一人でも多くの市民に「多文化共生」の意義・必要性を理解してもらい、文化的背景の異なる在住外国人との共生社会を実現するため引き続き取り組んでいく。**

- 2020年度も今年度と同様のコンセプトにてシンポジウムを開催する。
- パネルディスカッションには在住外国人により多く参加してもらうことも検討する。
- 予算確保のため次年度以降は協賛者の募集も検討する。
- 「多文化共生」を進める上での3つの課題「ことばの壁」「制度の壁」「こころの壁」の解消の一助としていく。
- 多文化共生が根付く街として川口市が全国のモデルとなるべく、行政および関係団体と更に連携して当事業を進めていく。





**ご清聴ありがとうございました**